

## 同情

### 同情

坂の車、わずか押しても動き出す。  
行きづまった涙の日、温い一言が一生を支配する。

つまづいた友に同情せよ、疲れてかえる友に同情せよ、戦いに破れた悲境の人に同情せよ。

しおれた草も根に与えられた水に蘇り、人も情の木蔭に復活する。

### 坂の車

「人の一生は重荷を負うて遠き道を行くが如し、急ぐべからず。不自由を常と思へば不足なし。心に望おこらば困窮したる時を思い出すべし。堪忍は無事長久の基、いかりは敵と思へ。勝つことばかり知って負けることを知らずんば害その身に至る。おのれを責めて人を責むるな。及ばざるは過ぎたるよりまされり。」

これは徳川家康の遺訓であります。いかにも賢実なる意志を以つて本尊とした三河武士の面目がはつきりとしています。人生を坂にたとえて一步一步、確実にふみしめてゆく家康の態度がはつきりとうかがわれます。

人生……それは誠に楽々と渡られる世界ではありません。

一難去つて又一難、休むひまもなき人生はさながら「坂に車」を思わせます。自分の力の相当の重荷をつけて人生という坂を登つてゆきます。

もつとも考えることなどちつともしないで、胡蝶のようにはね上つている人もあれば、酔どれのように、安価に人生を肯定して、愉快くと大楽天ぶりを發揮している人もあります。

しかし最後までこの呑気な楽天ぶりはゆるされません。

わずか押しても動き出す

坂道を歩いていきます。全身汗にぬれて重い荷車を引いている人があります。

あとから来た人が手をかしてあげます。

動かなかつた車が動き出します。

名も知らない人の好意に坂を上りきつた時、汗をふきく／＼礼を申します。

私どもは果して今日まで何人の車の後押しをなし得たことでしょうか。

私どもは今日まで何人の人に後を押してもらつたことでしょうか。

行きづまった涙の日

人生という長い旅路

誰の上にも行きづまる日が来る。

思わぬ事業の失敗から身動きもならぬ時がある。

夫に死に別れ、親に死に別れて、方角さえ立たぬ日がある。職業を失つて、明日からどうして食おうかとさえ思う日もある。思わぬ過失から、社会的地位がなくなつて、死んでやろうかと思う日さえ一生には幾度もある。

悪業に身をひかれて、冷たい法律の裁きを受け、自暴自棄に陥つて、世を呪い我が身を呪う人もある。

行きづまったことのある者にだけその淋しき、悩ましきがわかる。

行きづまって暗い闇路をたどっている者には、冷酷な批判は更にその人を悲観させます。

「要するに人格が小さいからだ。」

「それだから前もって言つたじゃないか。」

そうした一切の言葉が無用です。

温い一言が一生を支配する。

おお、温かい言葉！ おお、心からなる同情の涙！

愛のこもつた同情の一言が、慈愛のこもつた涙の一滴のみが、その人を起たせる唯一の霊薬である。

私の過去をふりかえります。

どうしようかしらと右にも左にも行けないほど困つてしまつた日がありました。

「御心配なさいますな、道は開けますよ。」

そうしたたつた一口の言葉が幾度行きづまった陰鬱を打破してくれたことでありましょう。

子供が試験に落第して帰つて来た時、

「心配することはないよ。本年はしっかり勉強なさいよ。さあ海へでも行つて気を晴らしていらつしやい。」その一語が子供を奈落の底から救い出します。

行きづまつては様々な事情で自殺する人が毎日のようにあります。もしその周囲に、温い心で慰め元気づける人があつたならば、その何パーセントかは助かるのではありませんまいか。実に温い同情の心は、時にその人の一生を支配します。

つまづいた友に同情せよ

同情は人の持つ心のうちで最も尊い心の一つであります。

他人の苦を我が苦として感ずる心であります。あなたの友がつまづいた日に、親身のようなあなたの親切が、あなたの友を蘇らすでありますよ。

親を失つて泣いている友はないか。

子を失つて気も狂せんばかりの友はいないか。

幾人かの子供をつれて、夫に死に別れた友はいないか。

事業の苦境に陥つてもがいている友はいないか。

「おちぶれて袖に涙のかゝる日に 人の心の奥ぞ知らるる。」

「私はたつた一人なのだ」



我らは日にそうした人に出会います。

子供をたくさん連れて妻を失った人があります。農繁期が来ても、子供をかかえて涙をのんで歯を食いしばるほかありません。

組内の人たちが早く仕事がすんだ時、皆で手を貸して仕事を手伝ってあげて下さい。

我が子にはおきざりにあい、財産は他人の手にわたり、老衰して唯一人住んでいる人が村には一人や二人はあります。

夕方の御馳走、野菜の煮しめの一皿でも持つて行ってあげて下さい。その方にとってはあなたはさながら天使のように感ぜられるでしょう。

人は他人を助けるか、助けられるかです。我らは過分に助けられています。

全くの恩恵に生きています。その恩恵を念う時、我らの手に出来ることをさせて頂くことは尊い義務であらねばなりません。

我らの眼に戦いに破れた悲境の人が見えて来る。それだけでも結構です。それをどうにかしてあげたい。それはもはや美しい情念であります。

それが実際になつて動く、美しい行為であります。

我らの心に慈涙の片滴もなく枯れはてた時には、そうしたものはうつりません。我らは我らの能力を自惚れてはならないと共に、我らを盲目にしてはなりません。その力に相等した世界が見えます。老いぼれた孤独のお爺さんがニコツとあなたに感謝して死んでゆく。小さい善かも知りません。それで結構です。

4

人は破れた程度が大きければ大きいだけ、小さい恵みにも涙ぐみます。元気な青年にとつては水一ぱいは問題ではなくても、今戦死しようとする人にとつては、最高の甘露であり、臨終の二三滴は人生の終幕を飾る大事実です。

しおれた草も

しおれた草も根に与えられた水に蘇ります。

水は草ではありません。

しかし草は水なくしては絶対に生きてゆきません。

人も情の木蔭に復活します。

私もまた決して温い情の水のない世界では笑い得ません。

如何にはつきりした理論をかきさかれようと、批判とやらが正しかろうと、冷たい愛のない言葉では私は助かりません。

私は時には死んで行ってもいいのです。命をささげてもいいのです。ただ温い人情の中であるならば、私は笑つて死んで行かれると思います。私に死を肯定せしむるものは大愛だけであります。美しい情念こそ大地に咲く花であります。